

おだいいに!

特集

■呼吸器内科

■呼吸器リハビリテーション

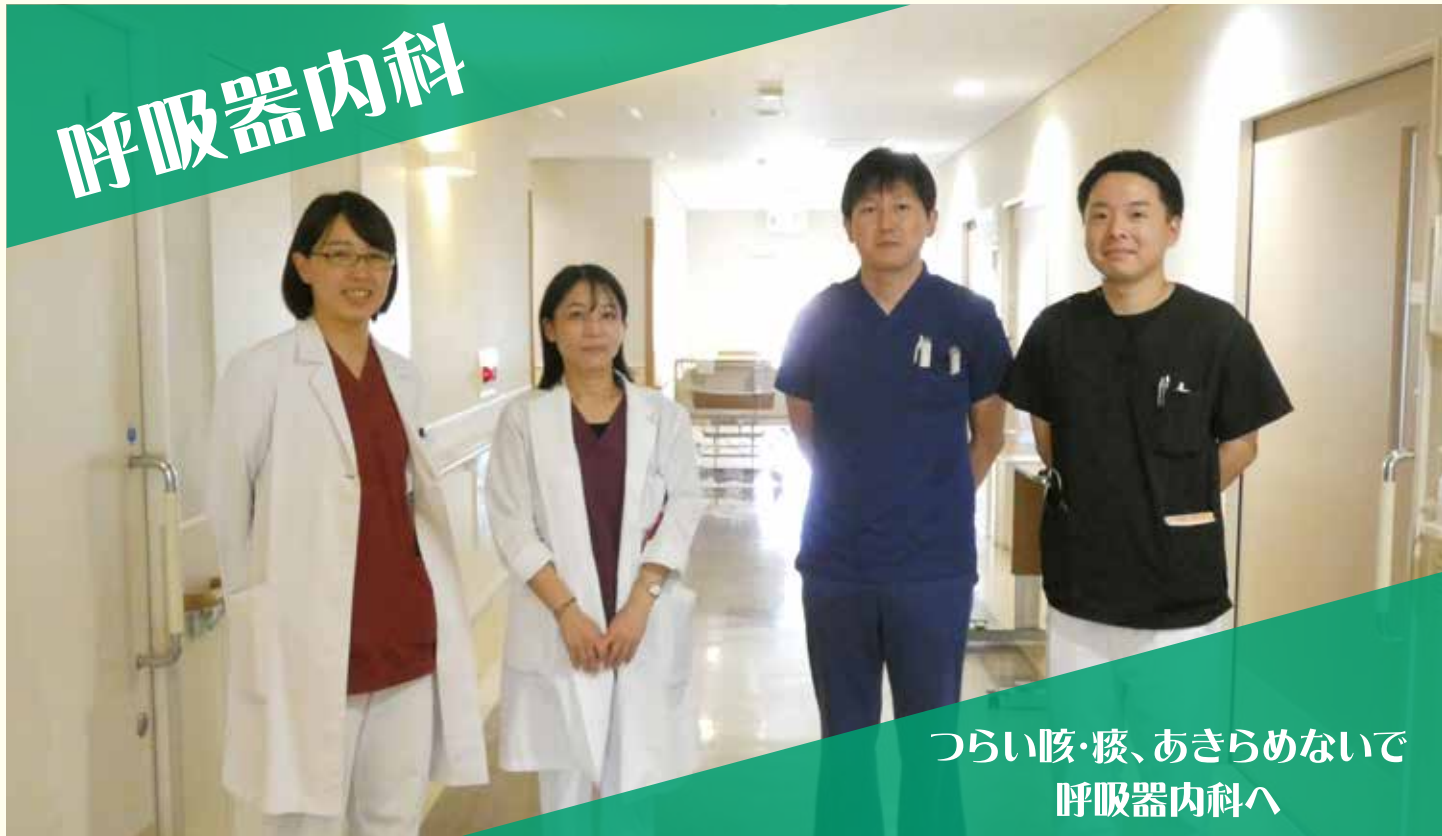


日本医療機能評価機構認定病院／基幹型臨床研修指定病院
公益財団法人
総合病院

浅香山病院

〒590-0018 大阪府堺市堺区今池町3丁3番16号
電話 072-229-4882(代)
<https://www.asakayama.or.jp>





呼吸器内科

つらい咳・痰、あきらめないで
呼吸器内科へ

地域医療へのさらなる貢献を目指して 急性期から慢性期まで、多様な呼吸器疾患に対応

※遺伝子組換え技術や細胞培養技術を用いて製造したタンパク質を有効成分とする医薬品。点滴または皮下注射で投与します。

近年の診療としては、COPD、肺炎や肺がんにかかられた高齢の患者さまが増加傾向にあります。また、喘息治療においては吸入薬の種類が増え、バイオ製剤の発売により治療の選択肢が広がり、専門的な診療が必要となっています。今までの治療で症状コントロールが難しくなった方への治療が進んでいます。

▼増加傾向にある疾患

また、うつ病や不安を伴う呼吸器症状の悪化など、合併症患者さまに対しても院内の精神科医師と連携し、適切な治療を行う体制を整えています。

▼呼吸器内科の特徴

呼吸器内科では5名の常勤医師が診療にあたっています。法人には訪問看護ステーションなどの関連施設もあり、密に連携しながら慢性期の在宅療養患者さまへのサポートを行なうなど、急性期から慢性期まで幅広い治療・対応が可能です。最近では、気管支喘息やCOPDの患者さまに対する吸入薬の調整や生物学的製剤（バイオ製剤※）の導入、気管支鏡検査や肺がんに対する抗がん剤投与など幅広く診療を行なっています。2023年度から超音波気管支鏡検査や局所麻酔下胸腔鏡検査を導入し、検査の質の向上が得られています。

▼呼吸器内科の診療

呼吸療法サポートチームの取り組み

呼吸療法サポートチーム（RST委員会）は、医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など多職種の専門家で構成され、人工呼吸器を使用する患者さまを中心に、安全で質の高い呼吸ケアを提供し、人工呼吸器からの早期離脱を目指すチームです。

主な活動内容には、患者さまの呼吸状態の評価、酸素療法や気管吸引の管理、呼吸器リハビリテーション、関連職員への教育・研修などがあります。メンバー各々の専門分野の知恵を集結し、担当スタッフとともに考え、ケアを実践しています。



RST委員会の様子

代表的な疾患・治療

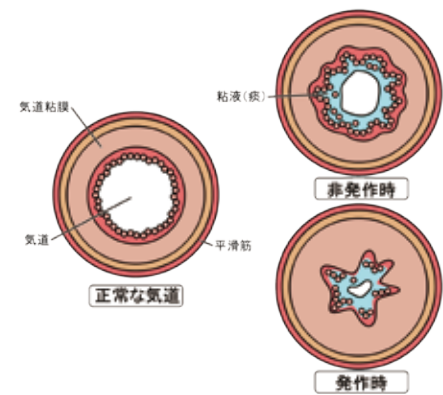
気管支喘息

気管支喘息は、気道のアレルギー性炎症により呼吸困難や咳、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューといった呼吸音）が生じる病気です。特に朝晩の症状が強く、日常生活に支障をきたす方もおられます。

当科では喘息治療のガイドラインに則した治療をしています。安定している場合は吸入ステロイドを中心とした吸入薬を使用しますが、症状に応じて吸入薬を調整します。また難治性喘息の場合は、近年発売されている生物学的製剤（バイオ製剤）を使用し適切に症状をコントロールします。喘息発作を起こした場合は内科外来や救急外来で適宜治療する体制を整えていますので症状が強い場合はご相談ください。

気になる症状をチェック！

気管支喘息が引き起こす気道の状態



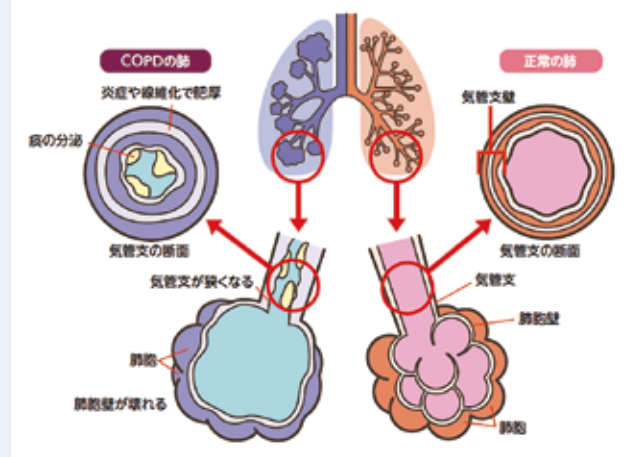
- ☑ 咳が3週間以上続いている
- ☑ 夜から朝にかけて咳がでる
- ☑ 呼吸音がゼーゼー・ヒューヒューとなる
- ☑ 特定の季節に症状が出る

慢性閉塞性肺疾患(COPD)

慢性閉塞性肺疾患(COPD)は肺気腫や慢性気管支炎などを含む総称で、主にタバコなどの有害物質を長期間吸うことで発症する呼吸器疾患です。悪化すると呼吸困難で歩けない、外出できないといった状態になることもあります。

気管支拡張薬を中心に治療を行ない、在宅酸素や在宅人工呼吸器を用いて症状の緩和を目指します。COPDの特徴としては風邪などの刺激をきっかけに「増悪」と呼ばれる、症状の急激な悪化が見られることがあります。抗生剤やステロイド薬による治療が一般的ですが、場合によっては入院のうえ、集中治療が必要な状態になることもあります。呼吸器症状があればお気軽にご相談ください。

気になる症状をチェック！



出典：厚生労働省『スマート・ライフ・プロジェクト』

- ☑ 現在タバコを吸っている、または吸っていた
- ☑ 咳、痰が数ヶ月続いている
- ☑ 階段や坂道を上がると息が切れる
- ☑ 同年代の人と同じペースで歩けない

Doctor's Voice

気管支喘息やCOPDといった呼吸器の病気は、咳や痰、呼吸が苦しいなどの症状が長く続くことが多く、「昔タバコを吸っていたから仕方ない」と諦めてしまう方もいらっしゃる。また、気管支喘息は鼻炎やアレルギーなどを合併しやすく、鼻づまりやにおいが分かりにくいといった悩みを抱える方も少なくありません。

しかし、最近では吸入薬の種類が増えたり、バイオ製剤という新しい治療法が登場したことで、「これまで行けなかった旅行に行けるようになった」「久しぶりに食事の香りを感じられるようになった」といった、前向きなお声をいただくことが増えています。

呼吸器の症状でお困りの方、専門的な検査や治療をご希望の方は、どうぞお気軽にご相談ください。皆さんの毎日が少しでも快適になるよう、一緒に考えていきましょう。



呼吸器内科 部長
小島和也 医師

知ってほしい！呼吸器リハビリテーションの力

～ 早期回復を目指して～

当院では、365日休みなくリハビリテーションを行なう回復期リハビリテーション病棟をはじめ、急性期から在宅まで継続したリハビリテーションを提供できる体制を整えています。

今回は、呼吸器リハビリテーション（以下、呼吸器リハビリ）についてご紹介します。

呼吸器リハビリって？



特集で紹介したCOPDなど呼吸器の病気や外傷によって何らかの障がい（息切れや咳など）を持つ患者さまに対して、可能な限り機能を回復または維持し、患者さま自身がより良い日常生活を送れるように行なうリハビリです。

期待できる効果！

- ① 呼吸困難感の軽減 ② 入院期間の短縮
- ③ 運動を行なうために必要な持久力の改善
- ④ 手術後の肺炎などの合併症発症リスクを軽減
- ⑤ 不安感や抑うつ軽減 など

息切れをそのままにしていると・・・

呼吸困難に拍車がかかると、悪循環が生じる可能性があるため、呼吸器リハビリは効果的です。



浅香山病院 呼吸器リハビリの特徴



- ★ 呼吸器疾患をお持ちの入院している方を対象に医師の指示のもと、患者さま一人ひとりの症状に応じて実施しています。また、当院で全身麻酔を伴う手術の予定がある方は、事前に肺機能検査を行ない、機能が低下している患者さまに対しては、**入院前からリハビリを開始**します。手術後は肺炎などの合併症を起こしやすいため、予防や機能回復を目的として積極的にリハビリを行なっています。
- ★ 人工呼吸器管理を必要とする患者さまに対して、リハビリスタッフのみならず、医師、看護師、臨床工学士といった多職種と密接に連携を図り、**人工呼吸器の早期離脱**を目指して活動しています。また、離脱後も必要に応じて呼吸指導や運動療法・指導を実施し、早期の退院に向けて支援を行なっています。
- ★ 退院後も、当院関連施設のひまわり訪問看護ステーションと連携し、在宅リハビリを支援しています。



【呼吸介助法の様子】

胸郭きょうかくの可動性を改善し、呼吸をしやすくします。



【呼吸練習機を使用した呼吸筋トレーニングの様子】

肺機能の改善、合併症の予防に効果的です。

リハビリテーション部 加藤 室長より患者さまへメッセージ

当院には、総勢50名を超える理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）が在籍し、リハビリに取り組んでいます。呼吸器リハビリチームでは呼吸筋トレーニングやストレッチ、呼吸法指導、呼吸介助などを通じて呼吸状態を整えつつ、身体の筋力や体力が落ちないように筋力トレーニングや歩行練習なども実施しています。また、誤嚥性肺炎の患者さまには、言語聴覚士が嚥下リハビリを行ない、安全に食事をとれるよう支援しています。